

内部地区自主防災協議会
平成30年度防災講演会

木田先生 おおいに語る！！ 過去の災害の様子を知り、減災活動に生かそう

平成30年10月20日(日)内部小学校体育館に於いて、内部地区自主防災協議会主催 平成30年度「防災講演会」が開催されました。

講演会は、司会 安藤教育訓練部長、アシスタント 藤田組織部長で進められ、東川会長の挨拶がありました。

講師は、前内部地区人権教育推進協議会会長の木田富喜二先生で、内部地区に75年間居住し、その間に発生した災害の記憶と教訓を、参加者約200人を前に、精力的に話をしていただきました。

先生の記憶に残る地震は15件で、1944年に発生した東南海地震は、死者23人、全壊家屋1265棟の被害を四日市にもたらしました。

先生の最も強く記憶に残る台風・風水害は、昭和34年9月の伊勢湾台風で、死者115人全半壊家屋は3695棟の被害を、四日市にもたらしました。当日の様子、道路・鉄道の状況、帰宅時の混乱、救援物資の準備(炊き出し・給水)等、先生の体験を生々しく聴くことができました。

災害事例一つひとつに対して、減災処方の話がありました。

- ① 日常から隣近所の関係を密にし、コミュニティを大切にする。
- ② 家庭内の不要物・家具の整理をしておく。
- ③ 通電火災と地震・台風火災に注意する。
- ④ 災害時の給水活動は大切である。
- ⑤ 避難は徒歩(原則)か、車かよく考えて行う。
- ⑥ 水流が遡上してくる。河川の水量判断は注意する。

参加者より、次のような感想がありました。「災害の整理が出来て良かった。」「先生は、自分の命は自分で守る。災害時は親も子もない。とに角逃げて自分の命を守れと言われたが、自分にできるだろうか?」「家族で災害時の対応について話し合う。」「一度逃げたら、忘れ物を取りに家に戻らないようにする。」「平時より、災害との付き合い方に慣れておくことが大切だと思った。」



(講演中の木田先生)



(会場風景)